

2017年度 第3回共創サロン

①ポスト社会主義モンゴルにおける記憶と変化



バトサイハン
客員研究員

1990年の民主革命により、モンゴル国を70年間支配していたソ連の共産主義体制が崩壊し、モンゴルは市場経済へと移行した。共産主義思想に基づいた政治体制は完全に崩れ去り、モンゴル人は自らの記憶を蘇らせ、共産主義思想に適合するように記述していた社会主義時代の歴史を見直す必要が出てきたのである。世界の歴史に足跡を残したチンギス・ハーンの銅像を建て、古代史を復活させ始めた。また、社会精神を醸成するために、歴史を正確に考察して社会に還元することが重要な役割を果たしている。

民主化以降、ソ連の影響下にあったモンゴルに世界と交流する扉が開かれた。人口は少ないが自然は豊富であり、領土も広大で、6000万の家畜を有するモンゴル人の生活様式は目に見えて変化している。イギリス、カナダ、アメリカ、日本などの国々の資本がモンゴルに進出し、モンゴルで鉱山産業を発展させている。若者たちはアメリカ、ドイツ、韓国、日本で学び、生活し、働き、モンゴルにヨーロッパの文化が浸透している。

地政学的にロシア、中国という大国に挟まれた緩衝地帯のように存在するモンゴルが、自らの方法でグローバル化する社会に適応しようと努力している様子について語ってみたい。

②マレーシアにおける感性工学研究の動向と展望

感性工学は、1970年代に広島大学の長町教授により提唱され、広島大学を中心に新製品開発への応用を繰り返しながら手法が確立されてきました。現在では、日本語の感性は英語でも“Kansei”と訳されるほど、多くの国で研究が盛んです。今回は、マレーシアでの1年間の研修を終えて、現地の研究プロジェクトに参加した経験から得られた感性工学の研究動向についてお話しする予定です。また、多民族国家マレーシアの生活実態や日本人コミュニティについてもお話しさせていただきます。



土屋 敏夫 教授

◆日時：7月26日（水）18：00～20：00

◆場所：下関市立大学 本館3階Ⅱ-301教室

◆参加費：無料

◆学生の皆さんも学外の方も、ぜひ奮ってご参加ください。

◆駐車場に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

◆共創サロンとは◆

参加者が相互に交流して情報を出し合い意見を交換する場です。テーマは学内の特色ある研究、教育、地域活動の中から、学生や学外の方を含む多くの方に興味を持っていただけるような内容を取り上げます。大学と地域との懸け橋となるよう気軽に参加できるサロンを目指していきますので、皆さん是非ともお越しください。

■お問合せ 下関市立大学附属地域共創センター

〒751-8510 下関市大学町二丁目1番1号 TEL 083-254-8613 FAX 083-253-1622 E-mail chiikikyoso@shimonoseki-cu.ac.jp